

1 研究主題

(1) 市教研統一テーマ

○自ら学び、心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成

(2) 部会テーマ

○個を生かした学習指導の進め方《小中合同主題》

○教材の本質にもとづき、児童の力で自然を調べる楽しさが体得される場の工夫と指導方法の追究
《小学校主題》

2 単元名 「もののとけ方」

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第5学年の内容「A(1)物質・エネルギー」を受けて、ものを水に溶かし、水の温度や量、溶けるものによる溶け方の違いを調べることができるようにすることがねらいである。

本単元では、食塩とホウ酸、ミョウバンを用い、ものの溶け方について興味・関心をもって追究する活動を通して、ものが水に溶ける規則性について条件を制御して調べる能力を育てるとともに、それらについての理解を深め、科学的な見方や考え方を養っていく。その中で、ものが水に溶けてもその重さは保存されていること、一定量の水に溶けるものの量には限度があり、それは溶けるものや水の温度によって異なること、またこの性質を利用すると、水溶液からその中に溶けているものを取り出すことができることを捉えさせるとともに、ものが水に溶けるときの規則性について見方や考え方をもちことができるようにする。

本内容は、第3学年「A(1)物と重さ」の学習を踏まえて、「粒子」について基本的な見方や考え方を柱とした内容のうちの「粒子の保存性」に関わるものであり、第6学年「A(2)水溶液の性質」の学習において、いろいろな水溶液の性質や金属を入れたときの変化などの視点から、水溶液の性質を追究する学習へ発展するものである。化学領域の基本的な見方や考え方の柱である「粒子」についての見方や考え方を育てられるよう指導の工夫・改善を図ることで、児童の理解を効果的に促進することができると思う。

単元を通して結果と考察を結び付けて思考する力を高めることができるよう、扱う薬品や実験道具を工夫した学習計画を立て、学習に取り組んでいく。第一次では、ものが水に溶ける様子を観察したり、溶かす前と後での重さを比べたりすることで水溶液の定義や性質について理解させていく。第二次では水に溶けるものの量について学習していくが、ここでは溶解度を意識させながら学習を進めていく。同じ温度の水に対してでも溶かすものによって溶ける量が違うことや温度と溶ける量が比例していないことに気付かせることで、ものにはそれぞれ固有の溶け方があることを理解させていく。また、学習の中で溶解度曲線を児童が作成することで、第三次の学習で「溶かしたものを取り出すためにはどのような方法をとればいいのか」について論理的に考えら

れる児童を育てていきたい。

そして本時では、児童が「水溶液の温度を下げると、溶かしたものが出てくる」という見方や考え方を身に付け、主体的に問題解決をできるよう学習を展開していく。本時の導入で、お湯の入ったビーカーに溶かしたホウ酸やミョウバンが、再び析出している様子を見た児童はそれまでの学習から「冷えたことで再び溶かしたものが出てきたのだろう。」と考える。そこで「冷えると出てくるのならば、どこまで冷えると溶かしたものは出てくるのか。」問いかける。予想の段階でこれまで学習してきた溶解度曲線から、大まかに溶かしたものが析出する水温と食塩が析出されなかった理由を考え、さらには食塩を取り出すためのより良い方法を児童が考えることができるよう、学習を展開していく。

単元の最後には、学んだことを生かして「千葉の塩づくり」に取り組んでいく。本時で食塩は水温を下げてでも取り出すことが難しい、という結果に気付いた児童はこれまでの学習から「水の量を減らせば良いのではないか。」と考えるであろう。その方法は千葉県でも昔から行われている塩づくりと同じであり、生活に欠かせない食塩を自分たちで考えた方法で取り出すことで科学と生活が密接に結びついていることを感じさせたい。

4 単元の目標

(1) 目標

物の溶け方について興味・関心をもって追究する活動を通して、物が水に溶ける規則性について条件を制御して調べる能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、物の溶け方の規則性について見方や考え方をもつことができるようにする。

(2) 評価規準

自然の事象への 関心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の 技能	自然事象についての 知識・理解
<p>○物を水に溶かしたときの様子に興味・関心をもち、自ら物の溶け方の規則性を調べようとしている。</p> <p>○溶け残った食塩やホウ酸を溶かすことに興味・関心をもち、自ら水の量や温度と溶ける量の関係を調べようとしている。</p>	<p>○水溶液の重さを、溶けている物と水を合わせた重さと関係づけて考察し、自分の考えを表現している。</p> <p>○物の溶け方とその要因について予想をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。</p>	<p>○電子てんびんや上皿てんびんを適切に操作し、物の重さを調べている。</p> <p>○メスシリンダーなどを適切に操作し、適量の水を量っている。</p> <p>○一定量の水に溶ける物の量を調べ、その過程や結果を記録している。</p> <p>○ろ過器具を適切に操作し、安全に実験を行っている。</p>	<p>○物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。</p> <p>○物が一定量の水に溶ける量には、限りがあることを理解している。</p> <p>○物が水に溶ける量は、水の量や温度、物によって違うことを理解している。</p> <p>○水の量や温度を変えると、溶けているものを取り出すことができることを理解している。</p>

5 単元の指導計画

次	時	学習活動	教師の支援
第一次 水溶液の 重さ	1	<p>○「溶かす」とはどのようなことなのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶けるってどういうことなのだろう。 ・紅茶に砂糖を溶かしたことがあるよ。 ・味噌汁もそうなのかな。 <p>○食塩を水に溶かし、その様子を観察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">食塩を水に入れたとき、つぶはどうなるか見てみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・もやもやしたものが、食塩の周りに見えたよ。 ・粒がどんどん小さくなっていつ見えなくなった。 ・食塩が溶けているのに水は透き通っているね。 <p>○水溶液の定義を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">食塩を水にいれるとだんだん小さくなり、見えなくなる。このような水にもものがとけたとうめいな液のことを水よう液という。</div> <p>○理科日記を書き、今後知りたいことや疑問を書き出す。</p>	<p>○生活の中で体験した「溶かす」活動について話し合わせる。</p> <p>○ティーバッグや長い透明な筒を使い、溶ける様子を観察させる。</p> <p>○食塩だけでなく、溶けた後の水にも注目するよう声をかける。</p> <p>○コーヒーシュガーを蓋のできる容器に入れ、かき混ぜなくても溶けるのか、有色透明は水溶液と言えるのか問いかける。</p>
	2 3	<p>○めあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶けて見えなくなったのだからなくなったと思う。 ・味はあるのだから、水溶液の中に残っていると思う。 ・重さを量って調べてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">食塩を水に入れる前と入れた後では重さはちがうのだろうか。</div> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩水の方が重くなっていると思うよ。 <p>○電子てんびんや上皿てんびんの使い方を知る。</p> <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩を入れる前と後では重さは変わらないね。 	<p>○児童の疑問をもとに溶けた食塩はどうなったのか問いかける。</p> <p>○溶けた食塩がなくなるのであれば、重さはなくなるはずであることを確認する。</p> <p>○電子てんびんや上皿てんびんの正しい使い方を確認する。</p>

		<p>とかす前の水とものを合わせた重さと、ものをとかしたあとの水よう液の重さは等しい。水よう液の重さは、水の重さととかしたものの重さの和になる。</p> <p>食塩の重さが増えるということは、食塩水の中に食塩はなくならずにある。</p>	
<p>第二次 水にとけるものの量</p>	<p>4</p>	<p>○めあてを確認する。</p> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂糖が溶け残るのを見たことがあるから塩も溶け残るんじゃないかな。 ・見えなくなるからいくらでも溶けると思う。 <p>○メスシリンダー、こまごめピペットの使い方を知る。</p> <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中から溶けなくなっちゃったね。 ・溶ける量には限界があるんだね。 ・他のものを溶かしてみたいな。 <p>○理科日記を書き、学習をふりかえる。</p>	<p>○教科書の「りかたま」を使って、「溶ける」ことについて伝える。</p> <p>○教科書の「ジャンプ」から水溶液の濃さは時間がたってもどこも同じままであること、有色透明でも水溶液と言えることを伝える。</p> <p>○児童の疑問をもとに食塩はどれくらい溶かすことができるのか問いかける。</p> <p>○メスシリンダーの見方や、こまごめピペットの持ち方など正しい使い方、注意点を伝える。</p>
<p>5 6</p>		<p>○めあてを確認する。</p> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩には溶ける量に限りがあったのだから、他のものも限りがあると思う。 ・ものによって溶ける量は違うと思う。限りなく溶けるものもあるんじゃないかな。 <p>○薬品の扱い方と実験の注意を確認する。</p> <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウ酸は食塩よりも溶けないね。 	<p>○ホウ酸とミョウバンについて説明をする。</p> <p>○保護めがねをかけること、髪の毛や袖など、薬品や火器を扱う際の注意点を伝える。</p>

	<p>・溶け残りはどうやったら溶かしきることができるかな。</p> <p>ホウ酸もミョウバンも決まった量の水にとける量には、かぎりがある。ものが水にとける量にはかぎりがある。また、ものによって、決まった量の水にとける量はちがう。</p> <p>○理科日記を書き、学習をふりかえる。</p>	
7	<p>○めあてを確認する。</p> <p>食塩やホウ酸、ミョウバンをもっととかすには、どうすればよいだろうか。</p> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まった量の水にとける量に限りがあるなら、水の量を増やせばいいよ。 ・温度は関係しているかな。 <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の量を増やすとどれもより多く溶けたね。 ・水の量を倍にしたら、とける量も大体倍になったね。 <p>ものをよりとかすには、水の量を増やせばよい。</p> <p>○理科日記を書き、学習をふりかえる。</p>	<p>○前時に扱った溶け残りのあるビーカーを見せ、溶け残りを溶かすにはどうしたらいいか問いかける。</p> <p>○児童の意見から実験方法を考えさせる。</p> <p>○水100mLに溶ける量を記録させる。</p> <p>○水の量を増やしたときにそれぞれ溶ける量は溶かす物質によって違うことを気付かせる。</p>
8	<p>○めあてを確認する。</p> <p>水溶液の温度によってホウ酸のとける量は変わるのだろうか。</p> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度が高い方が多く溶けると思うよ。 <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度を上げたときの方が多く溶けたね。 ・でも水の量のとくと違って、倍に増えたわけではなかったよ。 <p>ホウ酸をより多くとかすには水の温度を上げてよい。</p> <p>○自分たちの班の結果から、ホウ酸の溶解度曲線を作成する。</p>	<p>○20、40、60、80℃で測定させる。</p> <p>○温度を保つ教具を提示し、使い方を説明する。</p> <p>○クラスの結果の平均からホウ酸の溶解度曲線を作成する。</p>

	○理科日記を書き、学習をふりかえる。	
9	<p>○めあてを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水溶液の温度によってミョウバンのとける量は変わるのだろうか。</p> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウ酸といっしょでより多く溶けるようになると思うよ。 ・とける量の増え方もいっしょかな。 <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80℃になったらいくらいれても溶けたよ。 ・溶ける量の変化がホウ酸とは違うね。 <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ミョウバンも水の温度を上げるととがすことができる量は増えた。 同じ温度の水でもとがすことができる量はホウ酸と違う。</p> <p>○自分たちの班の結果からミョウバンの溶解度曲線を作成する。</p> <p>○理科日記を書き、学習をふりかえる。</p>	<p>○20、40、60、80℃で測定させる。</p> <p>○80℃以上でも溶ける量に限度があることを説明する。</p> <p>○クラスの結果の平均からホウ酸の溶解度曲線を作成する。</p>
10	<p>○めあてを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水溶液の温度によって食塩のとける量は変わるのだろうか。</p> <p>○予想をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くは溶けると思うけど、溶ける量の変化がちがうかもね。 ・ホウ酸やミョウバンと比べるとどうだろうか。 <p>○実験を行う。</p> <p>○結果と考察を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩は溶ける量が変わらないよ。 ・食塩は例外なのかな。 <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">食塩も水の温度を上げるととがすことができる量は増えた。 同じ温度の水でもとがすことができる量はホウ酸ともミョウバンとも違う。</p> <p>○自分たちの班の結果から食塩の溶解度曲線を作成する。</p> <p>○理科日記を書き、学習をふりかえる。</p>	<p>○20、40、60、80℃で測定させる。</p> <p>○微量だが温度を上げると溶ける量が増えていることに気付かせる。</p> <p>○クラスの結果の平均から食塩の溶解度曲線を作成する。</p>
第三 次 と	<p>○めあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーカーの底に何かあるね。 ・溶かしたものが出てきたのかな。 ・きっと時間がたって冷えたからだ。 ・上の透明な部分にはもう溶かしたものはないのか 	<p>○8、9、10 時間目に扱ったビーカーを提示し、ホウ酸とミョウバンが析出していることに気付かせる。</p> <p>○ビーカーに触れさせて、実験を行った時よりも冷えていることを確</p>

か し た も の の と り 出 し 方	<p>な。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出てきたものを取り除いて確かめよう。 <p>出てきたものと液体を分けよう。</p> <p>ろ過の仕方を知る。</p> <p>ろ過を行う。</p> <p>ろ過することで出てきたものろ液を分けることができる。</p> <p>理科日記でろ液から溶けたものを取り出す方法を考える</p>	<p>認させる。</p> <p>ろ紙の折り方やろうと台の使い方など、正しいろ過の仕方を伝える。</p> <p>ろ液にまだものが溶けているのならば取り出す方法はないか考えさせる。</p>
	<p>12</p> <p>ろ液の中にはもうとがしたものはとけていないのだろうか。 ろ液を冷やしたら取り出せるのだろうか。</p> <p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p> <p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p>	<p>ろ液の中にはもうとがしたものはとけていないのだろうか。 ろ液を冷やしたら取り出せるのだろうか。</p> <p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p>
13 本 時	<p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p> <p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p>	<p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p> <p>ろ液の中にとがしたものはある。 水溶液にとけているものを取り出すには水溶液の温度を下げればよい。</p>

			る。
		何℃まで冷やせばとかしたものは出てくるのだろうか。	
	○予想をたてる。 ・溶解度曲線を使えば、何℃から出てくるのかも分かるのではないかな。 ・どんな実験をしたらいいかな。		○溶解度曲線をもとに予想がたえられるよう声かけをする。
	○実験を行う。 ・ビーカーの底にホウ酸が出てきたよ。 ・ミョウバンもやってみよう。 ・ミョウバンは出てきたけど食塩は出てこないね。 ・食塩は温度を高くしても溶ける量があまり増えないからだ。		○ホウ酸の実験ができた班はミョウバンや食塩でも同じ実験をしてよいことを伝える。
	○結果と考察を話し合う。 ・食塩は溶解度曲線から考えれば、実験をしなくても取り出せないことがわかっていたね。 ・じゃあ、塩を取り出すにはどうしたらいいのだろう。		○食塩も温度を下げれば取り出せるが、その量はホウ酸やミョウバンに比べて少ないことを溶解度曲線を使って気付かせる。
		ホウ酸は○○℃、ミョウバンは○○℃で取り出せた。とかしたものが出てくる温度はとかした量とものによってちがいで、よう解度曲線で考えることができる。	
	○理科日記を書き、食塩を取り出すための方法を考える。		○食塩を取り出すための効果的な方法を考えさせる。
14	○めあてを確認する。		○ろ液から食塩をとり出すにはどうしたらいいか、問いかける。
		ろ液の食塩は水の量を減らしたら取り出せるだろうか。	
	○予想をたてる。 ・食塩はホウ酸みたいに温度が溶かす量にそんなに影響してなかったね。 ・どうやって水の量を減らせばいいかな。 ・熱して蒸発させればいいよ。 ・水たまりみたいに自然に蒸発させられないかな。		○溶解度曲線から食塩水の場合は温度を下げるのではなく、水の量を減らした方が効果的であることに気付かせる。
	○実験を行う		○4年生で学習した2種類の「蒸発」について確認する。
	○結果と考察を話し合う。 ・蒸発皿に白い粒が出てきたよ。		○蒸発皿などの扱い方を確認する。 ○用意しておいたプレパラートを顕

	<ul style="list-style-type: none"> ・食塩水を垂らしたプレパラートにも白い粒があるよ。 	微鏡で観察させる。 ○2つの実験結果を大型モニターで学級全体に見せる。
	水溶液にとけているものを取り出すには、水溶液の量をへらしてもよい。とけているものを取り出すにはそれぞれてきした方法がある。	
	○理科日記を書く。	
15	○学習のたしかめを行う ○塩づくりを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・普段食べている塩はこうして作られているんだね。 ・沖縄の塩と比べるとなんだか白くないね。 ・海が汚れているせいかもしれない。 	○前時の学習を生かした塩づくりの方法を考えさせる。 ○学んだことを生かし、塩づくりを行う。 ○日本で伝統的に行われている塩づくりについて伝える。

6 本時の展開 (12 / 15)

(1) 本時のねらい

溶かしたものが析出する温度を溶解度曲線から考えることができる。(科学的な思考・表現)

(2) 提案内容

単元構成の工夫

本単元では、ものの溶け方の規則性についての見方や考え方をもつことができるようになることを目標としている。その目標を達成するためには「ものによって溶ける限度が水の量や温度によって変わる」ことを理解することはとても重要である。水の量が増えれば溶かすことができる量も増えるのは児童にも理解しやすいだろうが、温度による溶解度の変化は生活の中にも似たような経験は少なく、児童にとって理解しづらいのではないかと考えた。そこで、食塩、ホウ酸、ミョウバンの溶解度曲線を児童自身が作成することで水温とものの溶ける量に対して理解を深めていく。それぞれ水温の変化に対して特徴的な溶け方をすることを観察し、溶解度曲線を作成することで児童は同じ温度であっても、ものによって溶ける量が違うことを理解し、溶解度を丁寧に扱って学習を進めていけるのではないかと考えた。本時ではものによって溶解度に違いがあることを知り、溶解度について理解を深めることで、それぞれ溶かしたものが析出する温度について溶解度曲線から論理的に予想をたて、実験を通して確かめていく。

実験の工夫

ホウ酸が析出してくる温度を確認できた児童にはミョウバンや食塩も同じように観察していいことを伝える。ホウ酸同様、溶解度の大きいミョウバンならば析出の様子が見られるがホウ酸とは析出する温度が違い、食塩は水の温度があがっても溶解度はそれほど増えないので析出されない。このことに溶解度曲線から気付ける児童、そして溶かしたものを取り出すために適した方法を考えられる児童を育てていきたい。

生活とのつながりを実感させるための工夫

単元の最後には学んだことを生かして「千葉の塩づくりをしよう。」という目標をもって学習を進めていく。普段の調味料として欠かせない食塩の作り方を考えることは児童の意欲を高められるのではないかと考えた。一次・二次で水溶液について理解を深め、三次ではいよいよ食塩水から食塩の取り出し方を児童は学ぶ。その中でこの学習に関連してわが国で伝統的に行われてきた「塩づくり」を紹介することで、理科の学習と生活とが綿密につながっていることに気付かせていきたい。また、沖縄の塩と比べることで海の水質や自然を保護しようとする態度を育てていきたい。

(3) 展開

児童の活動	○教師の支援 ◇評価	資料
<p>1 ビーカーの中に溶かしたものが再び出ていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウ酸がまた底に出てきているね。 ・時間がたって冷えたからだ。 ・何℃くらいから出てくるのだろうか。 <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>○ビーカーを提示し、ホウ酸が析出していることに気付かせる。</p> <p>○前時の学習から水溶液が冷えたことで析出したことに気付かせる。</p> <p>○水温を計り、伝える。</p> <p>○何℃くらいから溶かしたものは析出するのか問いかける。</p>	<p>○ホウ酸が析出したビーカー</p> <p>○溶解度曲線の表</p>
<p>何℃まで冷やせばと溶かしたものは出てくるのだろうか。</p>		
<p>3 予想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶解度曲線を使えば何℃から出てくるのか分かるんじゃないかな。 <p>4 実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想通り、℃になったら出てきたね。 ・ホウ酸とミョウバンを比べると、やっぱり出てくる温度がちがったね。 ・あれ、それだと食塩って何℃で出てくるのかな。 	<p>○今回は65℃の水にそれぞれ10g溶かしていることを伝える。</p> <p>○ホウ酸の実験ができた班はミョウバン、食塩で同じ実験をしてよいことを伝える。</p>	<p>○温度計</p> <p>○水槽</p> <p>○氷</p> <p>○ガラス棒</p> <p>○保温器</p>
<p>5 結果を共有し、考察をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウ酸とミョウバンは出てきたけど、食塩は出なかったよ。 ・食塩は温度が変わっても溶ける量がそんなに変わらないからじゃないかな。 ・溶解度曲線を見たら分かったね。 	<p>○溶解度曲線を使って出てきたミョウバンやホウ酸について説明する。</p> <p>○食塩も温度を下げれば取り出せるが、その量はホウ酸や食塩に比べて少ないことを溶解度曲線を使って気付かせる。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・溶けたものを取り出すにはそれぞれに合った方法があるんだね。 ・何 g 出てきたのかも溶解度曲線を使えば分かるんじゃないかな。 ・食塩はどうやったら取り出せるだろう。 	<p>◇溶かしたものが析出する温度を溶解度曲線から考えることができる。 (科学的な思考・表現)</p>	
<p>6 まとめ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ホウ酸は〇〇℃、ミョウバンは〇〇℃で取り出せた。とかしたものが出てくる温度はとかした量ともによってちがい、よう解度曲線で考えることができる。</p> </div>		
<p>7 食塩を取り出すためにはどうしたらよいか考察し、理科日記に書く。</p>	<p>○食塩はどのようにしたら取り出せるのか問いかける。</p>	